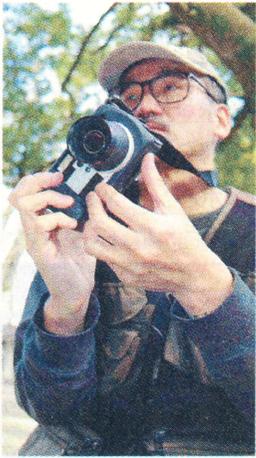


潜入！軍政ミャンマー

写真80枚 宇田さんルポ集

軍事政権下のミャンマー（ビルマ）で取材しているフォトジャーナリストの宇田有三さん（47）（神戸市在住）が、17年間の取材成果をまとめた「閉ざされた国「ビルマ」（高文研）を出版した。報道の自由が極端に制限される同国で、全14州・管区に潜入、取材した記者は世界で例がなく、約80枚の写真とルポで深部に迫っている。宇田さんは大阪市内など各地で講演活動を行い、軍政の迫害から逃れた人びとの窮状を訴えている。



愛用の防水カメラを構える宇田さん。ミャンマー当局を警戒し、日本でも眼鏡や帽子の「変装」を怠らない（神戸市で）

元中学校の英語教諭。米国の専門学校で撮影技術を身に付け、中米エルサルバドルの内戦取材で写真家としての一步を踏み出した。ミャンマー取材を始めたのは1993年。新聞記事で武装闘争を続けるカレン族のことを知り、「彼らは何を考えているのか肌で知りたいたい」と思い、現地に入った。山奥の最前線に生きる少年兵の姿や、司令官の表情、タイにある難民キャンプで暮らす人たちの様子を見て、「抑圧下でもたくましく生きる、この人たちのへ小さな歴史を記録したい」と考えたという。



カレン族難民キャンプで朝、少女が声を出して勉強していた（宇田さん撮影）

2001年には取材範囲を同国全域に広げ、今回の著書では、こうした取材の軌跡をたどった。軍政下での取材は危険を伴う。宇田さんは目的的に

全14州・管区取材 命懸けの抵抗、窮状訴え

スー・チーさんが入院する病院前に立つ支持者たち（2003年9月、宇田さん撮影）



行くまでに常にタクシーを3回乗り換え、偽名を使い分けている。緊迫した状況で撮った写真も多い。03年9月、しばらく行方不明だった民主化運動指導者アウン・サン・スー・チーさんが、最大都市ヤンゴンで入院していることが判明し、その病院前で、プラカードを持って立つ支持者を撮影した1枚もそうだ。私服の政府関係者が監視する中、通りすがりを装い、「緊張で腰が引けながら」隠し撮りした。現場の様子をとらえたメディアはほかになく、写真は翌日、タイで発行される英字新聞に掲載された。「プラカードに英語でもメッセージが書かれているのが見え、自分が海外に発信しなければ、と思った。命懸けで権力と向き合う人たちの姿をどうしても伝えたい」と振り返る。今年2月に大阪市内であった市民団体主催の講演会で、宇田さんは「ロヒンギヤ」と呼ばれる、ミャンマー軍政からバングラデシュに逃れた人びとの暮らしを語り語った。四六判240頁。本体1700円十税。問い合わせは高文研（03・3295・3415）。

が監視する中、通りすがりを装い、「緊張で腰が引けながら」隠し撮りした。現場の様子をとらえたメディアはほかになく、写真は翌日、タイで発行される英字新聞に掲載された。「プラカードに英語でもメッセージが書かれているのが見え、自分が海外に発信しなければ、と思った。命懸けで権力と向き合う人たちの姿をどうしても伝えたい」と振り返る。今年2月に大阪市内であった市民団体主催の講演会で、宇田さんは「ロヒンギヤ」と呼ばれる、ミャンマー軍政からバングラデシュに逃れた人びとの暮らしを語り語った。四六判240頁。本体1700円十税。問い合わせは高文研（03・3295・3415）。